

大和市下水道工事 施工管理基準

-令和7年4月-

大和市 下水道・河川施設課

目次

1	目 的	1
2	適 用	1
3	施工管理の基本構成	1
1	施工管理の基本構成	1
2	工程管理	1
3	出来形管理	1
4	品質管理	1
5	安全管理	1
4	施工管理の実施	2
5	管理項目及び方法	2
1	工程管理	2
2	出来形管理	2
3	品質管理	2
6	管理基準及び規格値	2
1	管理基準値	2
2	規格値	2
7	工事写真	2
8	工事打合せ簿	3
1	工事打合せ簿	3
2	用語の定義	3
9	施工管理基準	4
1	出来形管理基準及び規格値	4
2	品質管理基準及び規格値	1 1
10	写真管理基準	1 5
1	適用範囲	1 5
2	撮影箇所	1 5
3	撮影方法	1 5
4	写真の省略	1 5
5	写真の編集	1 5
6	写真の整理	1 5
7	請負額 1 3 0 万円以下の工事写真について	1 6
	別表	1 7
	参考資料	2 8
	書式：請負工事等打合せ簿	

1 目的

この下水道工事施工管理基準は、大和市環境共生部下水道・河川施設課発注の工事施工にあたって、工事の工程管理、出来形管理及び品質管理の確保を図るため、施工管理及び規格値の基準を定めたものである。

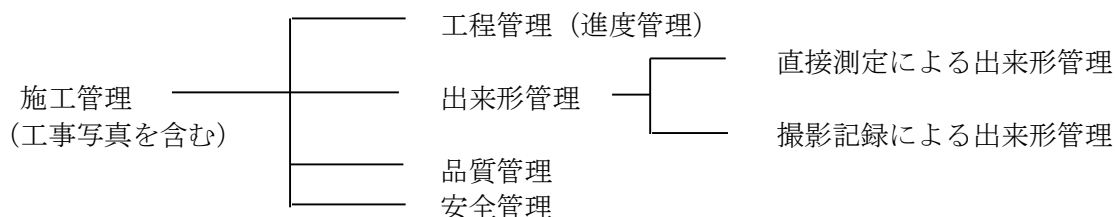
2 適用

この管理基準は、大和市環境共生部下水道・河川施設課が発注する土木工事について適用する。ただし、設計図書に明示されていない仮設構造物等は除くものとする。また、この管理基準に基準がないものは「神奈川県土木工事施工管理基準（神奈川県県土整備局都市部技術管理課）」、「下水道土木工事必携（案）（公益社団法人 日本下水道協会）」を採用する。また、工事の種類、規模、施工条件等により、この基準によりがたい場合は、監督員と協議して他の方法によることができる。

3 施工管理の基本構成

3-1 施工管理の基本構成

施工管理の基本構成は次のとおりとする。



3-2 工程管理

工程管理とは、指定期日を考慮し、工事施工達成に必要な作業の手順及び日程を定めて工程計画表を作成し、工事実施途中で計画と実施を比較検討し、必要な処置をとる事をいう。

3-3 出来形管理

出来形管理は、直接測定による方法と撮影記録による方法により行う。

イ) 直接測定による出来形管理とは、工事の出来形を把握するため工作物の寸法、凹凸、勾配、基準高等を施工の順序に従い直接測量（以下出来形測定という）し、その都度逐次その結果を管理図表又は結果一覧表に記録し、常に的確な管理を行うことをいう。

ロ) 撮影記録による出来形管理とは、出来形測定、品質管理を実施した場合において、又は施工段階（区切り目）及び施工の進行過程を確認するため、必要に応じ撮影記録を行うことをいう。

3-4 品質管理

品質管理とは、資材等の品質を把握するため、物理的、化学試験を実施（以下「試験等」という。）し、その都度その結果を管理図表又は結果一覧表に記録し、常に的確な管理を行う事をいう。

3-5 安全管理

安全管理とは、工事の施工にあたり、労働者や第三者に危害を加えないように、安全管理体制の整備、工事現場の整理整頓、施工計画の検討、安全施設の整備、安全教育の徹底などを行うことをいう。

4 施工管理の実施

- イ) 受注者は、工事施工前に、施工管理計画及び施工管理担当者を定めなければならない。
- ロ) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。
- ハ) 受注者は、測定（試験）等を工事施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施しなければならない
- 二) 受注者は、測定（試験）等の結果をその都度逐次管理図表等に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し直ちに提示するとともに、検査時に提出しなければならない。

5 管理項目及び方法

出来形管理及び品質管理は、第3～第5項に示す「直接測定による出来形管理」、「撮影記録による出来形管理」及び「品質管理」の方法により行うものとする。なお、この管理基準又は標準仕様書に明示させていない事項については、監督員の指示による。

5-1 工程管理

工程管理は、原則としてネットワークにより実施する。

5-2 出来形管理

受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形表又は出来形図を作成して管理するものとする。

5-3 品質管理

受注者は、品質を品質管理基準に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理し、その管理内容に応じて、工程能力図又は、品質管理図表は（ヒストグラム、 $\bar{X}-R$ 、 $\bar{X}-R_s-R_m$ 等）を作成するものとする。但し、測定数が10点未満の場合は品質管理表もにとし、管理図の作成は不要とする。

6 管理基準及び規格値

6-1 管理基準値

管理基準値とは「規格値」を確保するために、特に施工管理段階で定めている基準である。受注者は管理基準に基づき施工管理するものとする。

6-2 規格値

規格値とは設計と出来形の差の限界値であり、測定値は全て規格値を満足しなければならない。

7 工事写真

受注者は工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し直ちに提示するとともに、検査時に提出しなければならない。

8 工事打合せ簿

8-1 工事打合せ簿

工事打合せ簿とは（以下「打合せ簿」という。）は、発注者及び受注者が工事施工状況についてお互いに確認しあい、行き違いのないように書面に記録しておく重要な書類である。

打合せ簿は設計条件の変更を伴うものと、工事関係法令等に関わるものに区分される。

イ) 設計条件変更を伴う設計変更関係打合せ簿

契約書第17条（条件変更）に係る事項が発生した場合あるいは、条件明示項目では不都合が生じる場合には、打合せ簿で明確にし、発注者、受注者間で考え方の相違が起こらないようにしておく必要がある。この打合せ簿は、設計変更（金額、構造物等の形状・寸法等）の下となる大切な書類である。

ロ) 工事関係法令関係打合せ簿

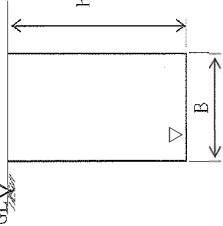
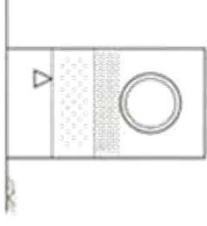
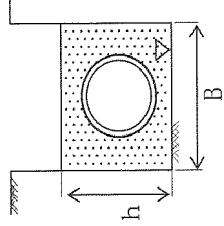
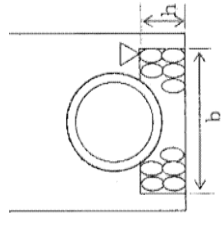
工事実施の際し、関係各機関、第三者等の打合せ、協議事項等で、発注者、受注者お互いに施工条件等の確認を必要とする事項（共通仕様書1-1-1-36）がある場合、打合せ簿で明確にしておかなければならない。

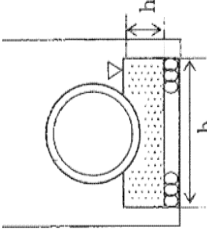


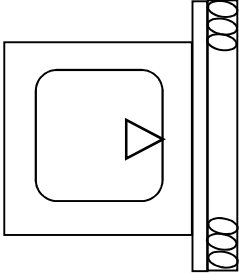
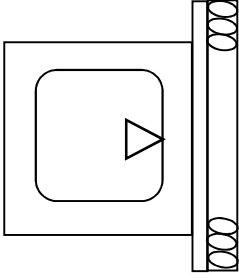
8-2 用語の定義

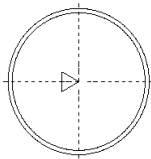
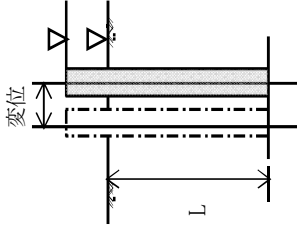
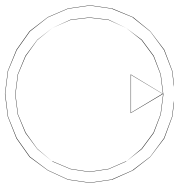
- 指示** — 監督職員が受注者に対し、工事の施工上必要な事項について書面をもって示し、実施させることをいう。
- 承諾** — 契約図書で明示した事項について、発注者若しくは監督職員又は受注者が書面により同意することをいう。
- 協議** — 書面により契約図書の協議事項について、発注者と受注者が対等の立場で合議し、結論を得ることをいう。
- 提出** — 監督職員が受注者に対し、又は受注者が監督職員に対し、工事に係わる書面またはその他の資料を説明し、差し出すことをいう。
- 提示** — 監督職員が受注者に対し、又は受注者が監督職員に対し、工事に係わる書面またはその他の資料を示し、説明することをいう。
- 報告** — 受注者が監督職員に対し、工事の状況または結果について書面をもって知らせることをいう。
- 通知** — 監督職員が受注者に対し、又は受注者が監督職員に対し、工事の施工に関する事項について、書面をもって知らせることをいう。

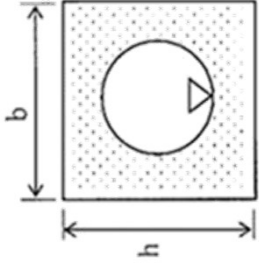
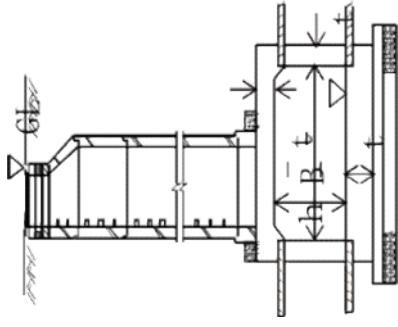
9 施工管理基準

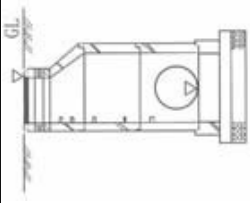
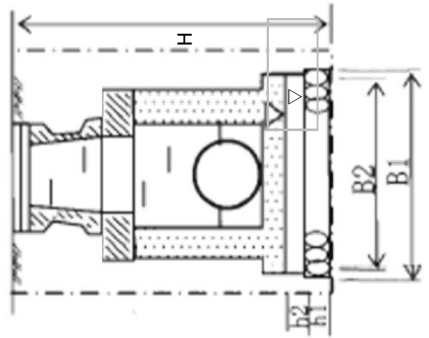
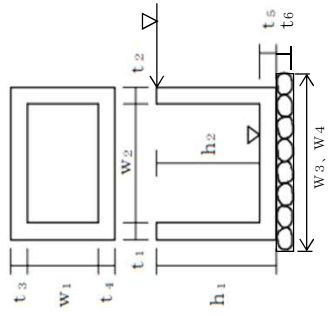
1 出来形管理基準及び規格値

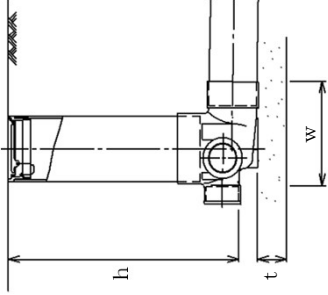
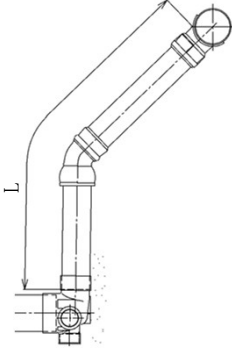
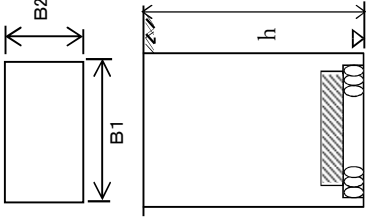
種別	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
管路	管路土工	基準高（床付面）▽	±30 mm	マンホール間ごとに1箇所測定する。ただし、50mを超える場合は1箇所以上追加して測定する。		土留めがある場合の幅 (B) は仮設材中心からの厚みを抜いた幅を基準とする。
		幅 (B)	－50 mm			
		基準高▽	±30 mm	マンホール間ごとに1箇所測定する。ただし、50mを超える場合は1箇所以上追加して測定する。		
	改良土基礎 砂基礎	基準高▽	±30 mm	各マンホール間の中央部及び両端部を測定する。ただし、マンホール間が50mを超える場合は1箇所以上追加して測定する。		土留めがある場合の幅 (B) は仮設材中心からの厚みを抜いた幅を基準とする。
		幅 (B)	－50 mm			
		厚さ (h)	－30 mm			
	砕石基礎	基準高▽	±30 mm	各マンホール間の中央部及び両端部を測定する。ただし、マンホール間が50mを超える場合は1箇所以上追加して測定する。		マンホール間で基礎形状が変わる場合は、それぞれの基礎スパンの間で測定を行う事。
		幅 (b)	－50 mm			
		厚さ (h)	－30 mm			

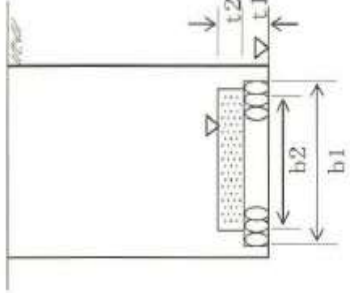
種別	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
管路	管基礎工	コンクリート基礎	基準高▽	各マンホール間の中央部及び両端部を測定する。ただし、マンホール間が50mを超える場合は1箇所以上追加して測定する。		マンホール間で基礎形状が変わる場合は、それぞれの基礎スパンの間で測定を行う事。
			幅 (b)			
			厚さ (h)			
	管布設工	自然流下管 (開削)	基準高▽	基準高、中心線の変位 (水平) は、マンホールの両端部とする。ただし、マンホール間延長が50mを超える場合は1箇所以上追加して測定する。		雨水管の勾配は基準値を満たすと共に、計画流量を下回らないこと。
			勾配			
			中心線の変位 (水平)			
		矩形渠 (製品)	延長ℓ	延長ℓはマンホール間を測定する。		総延長Lの基準は、管径、管種、工法が同一区間の合計延長にも適用する。
			ただし-200 mm			
			-200mm			
		矩形渠 (製品)	基準高▽	基準高、中心線の変位 (水平) は、20mに1箇所測定する。ただし、延長が短い場合は2箇所以上測定すること。		雨水管の勾配は基準値を満たすと共に、計画流量を下回らないこと。
			勾配			
			中心線の変位 (水平)			
		矩形渠 (製品)	延長ℓ	延長ℓはマンホール間を測定する。		総延長Lの基準は、管径、管種、工法が同一区間の合計延長にも適用する。
			ただし-200 mm			
			-200mm			

種別	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
管路	管 布 設 工	基準高▽	± 30 mm	基準高、中心線の変位（水平）は、施工延長40mにつき1箇所の割合で測定する。ただし、延長が短い場合は2箇所以上測定すること。				
		中心線の変位（水平）	± 50 mm					
		総延長L	-0.2% ただし－200 mm					
	管 路 土 留 工	基準高▽ （打込工法）	± 50 mm	建込工法はマンホール間ごとに1箇所測定する。ただし、50mを超える場合は1箇所以上追加して測定する。打込工法は、施工延長20mに1箇所測定するが、20m未満は2箇所測定する。		任意仮設の場合は除く。		
		根入長 L	設計値以上					
		変位	100 mm					
	推 進 工		基準高▽	± 50 mm	中心線の変位（水平）は推進管1本毎に1箇所測定する。		総延長Lの基準は、管径、管種、工法が同一区間の合計延長にも適用する。	
			勾配	± 1/10				
			中心線の変位（水平）	± 50 mm				
			延長 ϕ	-0.2% ただし－200 mm	延長 ϕ はマンホール間を測定する。			
			総延長L	－200 mm				

種別	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
管 路	推 進 工	空伏せ工	基準高▽	全数		
			±50 mm			
			幅 (b)			
			−30 mm			
			高さ (h)			
			−30 mm			
			中心のずれ			
			±50 mm			
			延長			
			−50 mm			
			勾配			
			±1/10			
	現場打ちマンホール 特殊マンホール	基準高▽	±30 mm	全数		<p>マンホール天端高はマンホール中心点の高さを測定する。</p> <p>躯体壁の厚さについて、円形は90° ずつ4箇所、矩形はすべての側壁を測定する。</p> <p>幅 (B) について、円形は直径を直角方向に2箇所、矩形は中心部直角方向に縦と横をそれぞれ測定する。</p>
		壁厚 (t)	−20 mm			
		幅 (B)	−30 mm			
		高さ (h)	±30mm			
		マンホール天端高	±30 mm			

種別	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
管 路	組立マンホール 小型マンホール	基準高▽	±30 mm	全数		マンホール天端高はマンホール中心点の高さを測定する。
		マンホール天端高	±30 mm			
	マンホール基礎工	基準高▽	±30 mm	全数		床掘深 (H) はマンホール中心点で測定する。 幅 (B1) (B2) について、円形は直径を直角に2方向、矩形は中心部直角に2方向をそれぞれ測定する。
		床掘深 (H)	±30 mm			
		砕石基礎工幅 (B1)	設計値以上			
		砕石基礎工厚 (h1)	－30 mm			
		コンクリート工幅 (B2)	－30 mm			
	雨水ます	コンクリート工厚 (h2)	－10 mm	全数		製品ますは、厚さ (t1～t5)、幅 (W1～W2)、高さ (h1) を除く。 幅 (W1～W4) は中心部直角に2方向をそれぞれ測定する。 円形ますの基礎工は直径を直角に2方向をそれぞれ測定する。 天端高は、ますの天端周辺で最大値を測定する。
		厚さ (t1～t 6)	－20 mm			
		幅 (W1～W2)	－30 mm			
		幅 (W3～W4)	設計値以上			
		高さ (h1, h2)	－30 mm			
		ます天端高	既設GL高 ±20 mm			

種別	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
管路	汚水ます	ます深 (h)	±30 mm	全数		
		砂基礎厚 (t)	-20 mm			
		砂基礎幅 (W)	インバート 部材幅以上			
	取付管	延長 (L)	-200 mm	全数		雨水ます及びマンホールの場合は躯体内側までの延長とする。
	立坑工	基準高(床付面) ▽	±30 mm	全数		測定位置が掘削面の場合、寸法 (B1, B2) は仮設材中心からの厚みを抜いた寸法を基準とする。
		深さ (h)	±30 mm			
		寸法 (B1, B2)	±100 mm			

種別	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
管 路	立坑土工 (立坑基礎工)	基準高▽	±30 mm	全数		幅 (b) が立坑の寸法と同じ場合は、仮設材中心からの厚みを抜いた幅を基準とする。
		碎石基礎幅 (b1)	－50 mm			
		碎石基礎厚 (t1)	－30 mm			
		底版コンクリート基準高	±30 mm			
		底版コンクリート幅 (b2)	－30 mm			
		底版コンクリート厚 (t2)	－10 mm			
	<div>管きよ更生工</div> <div>自立管 反転・形成工 法</div>	設計図書の定めによる				

*その他の項目については下水道土木工事必携 (案) (公益社団法人 日本下水道協会) によるものとする。

*監督員から特段の指示があった場合は、測定数量を追加、省略できる。

*基準高の規格値は、設計および指示・承諾に対しての差とする。

設計とは：当初および変更設計図書により明記された値。

指示とは：監督員の指示により変更した値とし変更設計を伴わないもの。

承諾とは：業者より施工計画書、製作・施工図書により変更した値とし、変更設計を伴わないもの。

2 品質管理基準及び規格値

工種	種別	試験区分	試験項目または品名	試験方法及び検査項目	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
管 布 設 工 (開 削 ・ 推 進)	管 渠 材 料	必 須	下水道用鉄筋コンクリート管	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外観 ・ 形状・寸法 (カラー及びゴム輪含む) ・ 外圧強さ ・ コンクリート圧縮強度 ・ 水密性 	JSWAS A-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外観は、全数について行う。 ・ 形状・寸法、外圧強さ、コンクリートの圧縮強度試験及び水密性は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。 	外観検査にあたっては、個々の製品について日本下水道協会の標章 (認定マーク) 及び管種を確認する。	○
			下水道推進工法用鉄筋コンクリート管		JSWAS A-2			
			下水道小口径推進工法用鉄筋コンクリート管用鉄筋コンクリート管		JSWAS A-6			
			下水道用硬質塩化ビニル管	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外観・形状 ・ 寸法 ・ 引張試験 ・ 偏平試験 ・ 負圧試験 ・ 耐薬品性試験 ・ ビカット軟化温度試験 	JSWAS K-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外観・形状検査は、全数について行う。 ・ 寸法、引張試験、偏平試験、耐薬品性試験及びビカット軟化温度試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。 	○	○
			下水道推進工法用硬質塩化ビニル管		JSWAS K-6			
			下水道用強化プラスチック複合管	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外観・形状 ・ 寸法 ・ 外圧試験 ・ 耐薬品性試験 ・ 耐酸性試験 ・ 水密性試験 	JSWAS K-2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外観・形状検査は、全数について行う。 ・ 寸法、外圧試験、耐薬品性試験、耐酸性試験及び水密性試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。 	○	○
			下水道用リブ付硬質塩化ビニル管		JSWAS K-13			
			下水道用レジンコンクリート管	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外観、形状及び寸法 ・ 外圧試験 ・ 水密性試験 ・ 耐酸性試験 ・ 吸水性試験 	JSWAS K-11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外観・形状検査は、全数について行う。 ・ 寸法及び外圧強さ、水密性は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。 	○	○

工種	種別	試験区分	試験項目または品名	試験方法及び検査項目	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
管布設工（開削・推進）	管渠材料	必須	下水道用ダクタイル鋳鉄管	<ul style="list-style-type: none"> ・原管 ・内装 ・外観 ・形状、寸法 ・引張試験 ・硬さ試験 ・水圧試験 	JSWAS G-1 JSWAS G-2 JIS G5526 JIS G5527	<ul style="list-style-type: none"> ・外観は、全数について行う。 ・形状、寸法、引張試験、硬さ試験、水圧試験については日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。 	日本下水道協会の証明書を提出するほか、標章（認定マーク）を確認する。	○
			下水道用ポリエチレン管	<ul style="list-style-type: none"> ・外観・形状 ・寸法 ・引張試験 ・偏平試験 ・水圧試験 ・偏平負圧試験 ・耐薬品性試験 ・環境応力き裂試験 ・熱間内圧クリープ試験 ・ピーリング試験 ・熱安定性試験 ・融着部相溶性試験 ・耐候性試験 	JSWAS K-14	<ul style="list-style-type: none"> ・外観・形状検査は、全数について行う。 ・寸法、引張試験、偏平試験、水圧試験、偏平負圧試験、耐薬品性試験、環境応力き裂試験、熱間内圧クリープ試験、ピーリング試験、熱安定性試験、融着部相溶性試験及び耐候性試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。 		○
マンホール設置工	マンホール材料	必須	下水道用鑄鉄製マンホール蓋	外観及び形状	大和市型下水道用人孔鉄蓋性能規定書による			○
			組立マンホール	<ul style="list-style-type: none"> ・外観 ・形状・寸法 ・圧縮強度試験 ・軸方向耐圧試験 	JSWAS A-11		外観検査にあたっては、個々の製品について日本下水道協会の標章（認定マーク）を確認する。	○
			下水道用鑄鉄製防護蓋	<ul style="list-style-type: none"> ・外観 ・形状・寸法 ・荷重たわみ試験 ・耐荷重試験 ・材質試験 	JSWAS G-3	<ul style="list-style-type: none"> ・外観検査は、全数について行う。 ・寸法、荷重たわみ試験、耐荷重試験及び材質試験は、日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。 		○
			下水道用塩化ビニル製小型マンホール		JSWAS K-9	<ul style="list-style-type: none"> ・外観検査は、全数について行う。 ・寸法、引張試験、偏平試験、耐薬品性試験及びビッカート軟化温度試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。 	(注)日本下水道協会の認定工場制度による認定工場の製品検査資格材の場合、同協会発行の検査証明書等をもって検査とすることができる。	○

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目 又 は 品 名	試 験 方 法 及 び 検 査 項 目	規 格 値	試 験 基 準	摘 要	試 験 成 績 表 等 に よ る 確 認
ます設置工	接続ます材料	必須	下水道用塩化ビニル製ます	<div>・外観</div> <div>・形状・寸法</div> <div>・引張試験</div> <div>・荷重試験</div> <div>・負圧試験</div> <div>・耐薬品性試験</div> <div>・ビカット軟化温度試験</div>	JSWAS K-7	<div>・外観検査は、全数について行う。</div> <div>・寸法、引張試験、扁平試験、耐薬品性試験及びビカット軟化温度試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。</div>	他日本下水道協会の認定工場制度による認定工場の製品検査資機材の場合、同協会発行の検査証明書をもって検査とすることができる。	○
管更生工（品質証明書）	材料	必須	更生管（自立管）	短期曲げ強度試験	JIS K7171	<div>工事開始前（過去に実施した試験でも可）または、材料仕様に変更があるごとに1回。ただし、公的試験機関による証明書あるいは「建設技術審査証明書（財）下水道新技術推進機構」等がある場合は試験に替えることができる。</div>		○ ※1
				短期曲げ弾性係数試験	JIS K7171		ガラス繊維補強の場合	
				長期曲げ強度試験	JIS K7171		ガラス繊維補強無しの場合	
					JIS K7039 (K7020)		ガラス繊維補強の場合	
				長期曲げ弾性係数試験	JIS K7116		ガラス繊維補強無しの場合	
					JIS K7039 (K7020)		ガラス繊維補強の場合	
				引張強度・引張弾性係数試験	JIS K7161			
				圧縮強度・圧縮弾性係数試験	JIS K7181			
				扁平強さまたは外圧強さ	φ600mm以下 JSWAS K-1 扁平試験			
					φ700mm以上 JSWAS K-2 外圧試験			
耐薬品性試験	JSWAS K-1	熱可塑性、塩ビ系の表面部材						
	JSWAS K-2							
	JIS K7204 または JIS A1452	熱硬化性						

工種	種別	試験区分	試験項目または品名	試験方法及び検査項目	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
管更生工（品質証明書）	材料	必須	更生管（自立管）	耐ストレーン・コロージョン試験	JIS K7034 JIS K7020	工事開始前（過去に実施した試験でも可）または、材料仕様に変更があるごとに1回。ただし、公的試験機関による証明書あるいは「建設技術審査証明書（財）下水道新技術推進機構」等がある場合は試験に替えることができる。	ガラス繊維補強の場合	○ ※1
				耐劣化性	JIS K7116 プラスチックの曲げタック リープ試験		ガラス繊維補強無しの場合	
				水密性	JIS K-2に準じた方法			
				水理性能	流下能力試験			

※1 各試験データは公的試験機関等により証明されるものであることを原則とする。

工種	種別	試験 区分	自立管				試験方法及び検査項目	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等 による 確認
			熱形成タイプ		熱硬化、光硬化 タイプ						
			工場認定制度（Ⅱ類登録）								
			無	有	無	有					
管更生（施工）	材料	必須	○		○	○	曲げ強度試験	JIS K7171	1 スパン毎※3	試験片の採取にあたっては、監理技術者または主任技術者等が立会い、試験片に検印（サイン）する。	
			○		○	○	曲げ弾性係数試験	JIS K7171			
			○		○	○	引張強度・引張弾 性係数試験	JIS K7161	工法毎		
			○		○	○	圧縮強度・圧縮弾 性係数試験	JIS K7181			
			○				耐薬品性試験	JSWAS K-1 （塩ビ系）	1 スパン毎		
							JSWAS K-14 （ポリ系）				
				○	耐薬品性試験	侵漬後曲げ 試験	工法毎				
	施工		○	○	○	加熱温度 照射加熱冷却時間保持 圧力等各工法が規格する項目	施工管理記 録（チャート 紙）の提出	1 スパン毎			

*その他の項目については下水道土木工事必携（案）（公益社団法人 日本下水道協会）によるものとする

10-1 適用範圍

10-2 摄影箇所

10-3 摄影方法

- ## 10-4 写真の省略

10-5 写真の編集

10-6 写真の整理

- 15 -

v 工事用仮設備保安施設等

vi その他の写真

10-7 請負額130万円以下の工事写真について

130万円以下の工事については以下の方法で紙媒体により提出することができる。

- (1) 写真の大きさ
写真の大きさは、サービスサイズを標準とする。
- (2) 写真帳の大きさ
写真帳の大きさは原則としてA-4判程度を標準とし、監督員の指定した形式とすること。表紙には、工事件名、施工業者名を記入すること。なお、表紙の色は監督員の指示によるものとする。
- (3) 必要に応じ見取図や説明図等を写真帳に添付すること。
- (4) 写真帳の提出
工事が竣工したときは、写真帳を整理してすみやかに提出すること。

別表

区分	工種	写真管理項目		摘要
		撮影項目及び内容	撮影頻度〔時期〕	
着手前・完成	着手前	【撮影項目】 全景、マンホール設置箇所（長距離推進工事は中間部）、その他代表部分	着手前1回 〔着手前〕	写真説明には、撮影箇所が判るようにマンホール番号や場所、施工区分を明示する。（着手前と完成は同一箇所とする）
	完成		施工完了後1回 〔完成後〕	
	仮設（指定仮設）	使用材料、仮設状況、形状寸法	1施工箇所に1回 〔施工前後〕	
	図面との不一致	図面と現地との不一致の写真	必要に応じて 〔発生時〕	工事打合せ簿に添付する。
	使用材料	形状寸法	品目ごとに1回 〔使用前〕	
各種試験及び調査	使用材料	検査実施状況	品目ごとに1回 〔検査時〕	
		試験実施状況	その都度	
		各種標識類の設置状況	種類ごとに1回 〔設置後〕	
	安全管理	各種保安施設の設置状況	種類ごとに1回 〔設置後〕	
		交通誘導状況	各1回 〔作業中〕	交通誘導警備員の配置状況を設置場所周辺の状況が分かるように撮影する。
その他		安全訓練等の実施状況	実施ごとに1回 〔実施中〕	実施状況資料に添付する。
	特殊工法	施工状況及び設備状況	箇所当り	監督員と協議する。
	舗装工等	道路部局等関係機関の工事施工要領に従う。		
	各種調査	試掘、家屋調査などの調査状況がわかるように撮影する。	その都度	
	環境対策現場環境改善等	実施内容	その都度	

区分	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目及び内容		撮影頻度〔時期〕	
管路土工	管路掘削	掘削状況		マンホール間ごとに1回とし、50mを超える場合は1回以上加える〔施工中〕	施工管理箇所と同一箇所撮影すること。
		基準高		マンホール間ごとに1回とし、50mを超える場合は1回以上加える〔施工後〕	
		幅			
	管路埋戻	埋戻状況		マンホール間ごとに1回とし、50mを超える場合は1回以上加える〔施工中〕	各層ごとに材質及び使用機械等がわかるように撮影する。 管路埋戻については、施工時における所定の一層の厚さごとの埋戻状況を撮影すること。
管きよ工（開削）	建設発生土処分 残塊（産廃）処分	積込、運搬、処分状況		路線ごと〔施工中〕	発生土処分、残塊処分等の種類や掘削機種及び運搬車種が判るよう、種別毎に撮影すること。
	管きよ	布設状況 （特にジョイント部）		マンホール間ごとに1回とし、50mを超える場合は1回以上加える〔施工中〕	接続部の滑剤等の塗布状況、差し込み施工状況、差し込み完了時の表示マーク位置の状況等を撮影すること。
		中心線の変位（水平）		マンホール間ごとに1回とし、50mを超える場合は1回以上加える〔施工後〕	ただし、埋戻し後に測定状況写真が撮影出来なくなる箇所は、施工中に測定状況を撮影すること。
	管布設工	布設状況		施工延長40mにつき各状況を1回とし、延長が短い場合は2回以上 曲部や特殊押輪等の区間はその都度〔施工中〕	接続部の滑剤等の塗布状況、差し込み施工状況、差し込み完了時の表示マーク位置の状況、ボルトの締め付け状況、ポリエチレンスリーブ施工状況等を撮影すること。
管基礎工	圧送管	中心線の変位（水平）		施工延長40mにつき1回とし、延長が短い場合は2回以上〔施工中〕	
		施工状況		マンホール間ごとに1回とし、50mを超える場合は1回以上加える 基礎形状が変わる都度加える〔施工中〕	厚さ、設置状態をリボンテープ、箱尺等で寸法を明示して撮影する。
		基準高			
		幅		マンホール間ごとに1回とし、50mを超える場合は1回以上加える 基礎形状が変わる都度加える〔布設後〕	
	改良土基礎 砂基礎 砕石基礎 コンクリート基礎	厚さ			
出来形管理					

区分	工種	写真管理項目		摘要
		撮影項目及び内容	撮影頻度〔時期〕	
管きょ工（開削）	管路土留工 建込鋼矢板土留 建込アルミ矢板土留 打込鋼矢板	建込状況	建込工法はマンホール間ごとに1回とし、50mを超える場合は1回以上加える 打込工法は施工延長20mに1回、20m未満は2回とする 〔施工中〕	任意仮設は受注者の計画した構造寸法で撮影する。
		根入長	建込工法はマンホール間ごとに1回とし、50mを超える場合は1回以上加える 打込工法は施工延長20mに1回、20m未満は2回とする 〔施工前後〕	
管きょ工（小口径推進、推進）	推進工 推進工	各種設備設置撤去状況 （推進設備、掘進機、坑口、泥水処理設備等）	1施工箇所につき1回 〔施工中〕	管きょに本数を記入し、管種の表示を撮影する。
		掘進状況 （掘削、送排泥、滑剤注入等）	1施工箇所につき1回 〔施工中〕	
		裏込注入充填状況確認	日々充填毎 〔施工中〕	
		中心線の変位（水平）	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	
		管本数、管種	推進開始及び最終管と10本毎 管種が変わる都度 〔施工中〕	
立坑	立坑工	施工状況	1施工箇所につき1回 〔施工中〕	
		寸法	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	
		深さ	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	
		施工状況	1施工箇所につき1回 〔施工中〕	
	立坑土工 （立坑基礎工）	砕石基礎幅	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	
		砕石基礎厚		
		底版コンクリート幅		
		底版コンクリート厚		

区分		工種	写真管理項目		摘要		
			撮影項目及び内容	撮影頻度〔時期〕			
(小口径推進、推進)	立坑内管布設工	空伏工	施工状況	1施工箇所1回 〔施工中〕			
			幅				
			高さ				
			延長				
			中心線の変位（水平）				
管きよ更生工	管きよ内被覆工	自立管 （反転・形成工法）	管種	1施工箇所1回 〔施工中〕	管種の表示を撮影する。		
			設計図書の定めによる				
			据付状況	1施工箇所1回 〔施工中〕		配筋、型枠、コンクリート仕上り状況を、テープ、箱尺等で寸法を明示して撮影する。側塊の仕上り状況を撮影する。 足掛け金物、マンホール蓋の設置状況、インバートの施工状況、仕上がり状況を撮影する。	
			基準高 版、壁厚 内法寸法 マンホール天端高	1施工箇所1回 〔施工後〕			
			据付状況	1施工箇所1回 〔施工中〕			
マンホール築造工	マンホール工	組立マンホール 小型マンホール	基準高	1施工箇所1回 〔施工後〕	ジョイント部のシール材、接続金具の設置状況、マンホール蓋設置状況、インバートの施工状況、仕上がり状況を撮影する。		
			マンホール天端高				
			据付状況	1施工箇所1回 〔施工中〕			
			マンホール基礎工	マンホール基礎工	施工状況	1施工箇所1回 〔施工中〕	砕石基礎、コンクリート基礎等別に厚さ、形状、設置状態を撮影する。
					基準高		
床堀深							
砕石基礎工幅	1施工箇所1回 〔施工後〕						
砕石基礎工厚							
後付け中間スラブ	後付け中間スラブ	コンクリート工幅		設置状況、設置位置の寸法を撮影する。			
		コンクリート工厚					
		据付状況	1施工箇所1回 〔施工後〕				

区分		工種	写真管理項目		摘要
			撮影項目及び内容	撮影頻度〔時期〕	
出来形管理	取付管及びます工	雨水ます	設置状況	種別ごと3箇所に1回程度〔施工中〕	穿孔、接着剤塗布状況等を撮影する。 管きょ工（開削）に準じて適宜撮影する。 任意仮設は受注者の計画した構造寸法で撮影する。 舗装とのすり付け状況含む
			ます深、側壁厚、内寸、底板厚、基礎工	種別ごと3箇所に1回程度〔施工後〕	
			配筋状況（有筋の場合）	種別ごと3箇所に1回程度〔施工後〕	
		汚水ます	設置状況	種別ごと3箇所に1回程度〔設置中〕	
			ます深	種別ごと3箇所に1回程度〔設置後〕	
			基礎工	種別ごと3箇所に1回程度〔施工後〕	
	取付管布設工	取付管	布設状況、延長	種別ごと3箇所に1回程度〔施工中・施工後〕	管きょ工（開削）に準じて適宜撮影する。
		支管	設置状況	種別ごと3箇所に1回程度〔施工中・施工後〕	
		土工	掘削状況、寸法、埋戻し状況等	種別ごと3箇所に1回程度〔施工中・施工後〕	
		腹起し切りばり	設置状況	路線ごと1箇所	
仮設工	覆工	設置状況	箇所ごと	舗装とのすり付け状況含む	
	仮締切工	設置の前、施工中及び施工後を同一方向から撮影する。	箇所ごと		
	防護工	施工中と埋戻し前に種類を明示して撮影する。	箇所ごと又は30mごと		
	地盤改良工	薬液注入工噴射攪拌工	施工機械設備状況 注入位置 注入番号 隣接注入工孔 注入機械 周辺状況 材料検査状況 観測井設置及び地下水観測状況 注入後の効果状況 検尺状況		注入孔に連番を付し、注入孔の5箇所当り1箇所、材料検査はそのつど
ウェルポイント及びポンプの施工状況設置状況 揚水量測定状況			路線ごと		

区分		工種	写真管理項目		摘要
			撮影項目及び内容	撮影頻度〔時期〕	
施設	土工	敷地造成工法 面整形工 盛土・切土	施工状況	施工延長40mにつき1回 〔施工中〕	使用機械ごとに適宜撮影すること。 建設発生土等処理状況も含む。なお運搬ルート、 運搬先の写真をとること。
			幅	施工延長40mにつき1回 〔施工後〕	
			建設発生土仮置場及び受入れ作業状況		
		土工（掘削）	掘削状況	施工延長40mにつき1回 〔施工後〕	
			幅	施工延長40mにつき1回 〔施工後〕	
			建設発生土仮置場及び受入れ作業状況		
	コンクリート工	鉄筋工	配筋と組立、継手状況構造の変化する部分 の継手圧接作業状況テストピース採取状況	1断面で2～3箇所	各々、板、壁、梁、柱ごとに撮影のすること。鉄 筋の間隔についてはリボンテープ、箱尺等使用
			コンクリートのテストピース採取及び試験 状況現場打込状況（縮固状況）	適時	
		モルタル工	施工状況	適時	
			型枠工	組立状況（断面寸法カブリ等）	コンクリート打込前同一断面で2～3箇所
防護工	防護工	支障物に接近して施工する場合埋設物の確 認等既設構造物、埋設物等の防護作業状況 及び防護材等の措置	そのつど		
	防食工	施工前作業工程ごとの施工状況 〔施工後〕	適時		
			各種試験	品質管理基準に応じて	

区分		工種	写真管理項目		概要
			撮影項目及び内容	撮影頻度〔時期〕	
防水工	防水工		各層ごとの施工状況出来形の全景	適時	
	仮設	土留 仮締切 (H鋼杭、鋼矢板) 支保工 保安施設使用機械設備	打込状況、出来形全景	施工延長20mにつき1回 〔打込中〕	任意仮設は受注者の計画した構造寸法で撮影する。 施工中並びに完了時適時、ブロックごとに撮影すること。矢板切断については状況を撮影すること。
根入長			施工延長20mにつき1回 〔打込前後〕		
偏心量			施工延長20mにつき1回 〔打込後〕		
数量			全数量 〔打込後〕		
連続地中壁工	連続地中壁工	壁式	施工状況	施工延長40mにつき1回 〔施工中〕	ガイドオールの出来形も撮影する。 任意仮設は受注者の計画した構造寸法で撮影する。
			組立及び溶接状況 吊込状況 コンクリート打込状況 スライムの処理状況 杭頭部仕上げ状況 出来形の全景間隔及び径、壁厚垂直精度の測定状況 各種試験	工事の規模に応じて撮影回数を決める。	
			地中壁の長さ	施工延長40mにつき1回 〔施工後〕	
			垂直変位		
	連続地中壁工	柱列式	施工状況	施工延長40mにつき1回 〔施工中〕	
			地中壁の長さ		
			垂直変位		

区分		工種	写真管理項目		摘要	
			撮影項目及び内容	撮影頻度〔時期〕		
施設	基礎工	砕石基礎工	施工状況	20mにつき1回 〔施工中〕		
			幅厚さ	20mにつき1回 〔施工後〕		
			施工状況	10mにつき1回 〔施工中〕		
			基準高、幅高さ	10mにつき1回 〔施工後〕		
	基礎工	直接基礎工	施工状況	施工延長20mにつき1回 〔施工中〕		
			幅	施工延長20mにつき1回 〔施工後〕		
			厚さ			
			試験杭			打込み状況、継手作業状況、載荷試験状況 （試験装置及び記録計）
	基礎杭工	木杭		打込み状況杭の切揃え出来形の全景と間隔	ブロックごと	P C杭頭部仕上げ状況は全数撮影する。 出来形管理基準・規格値を判定できるように状況を 適宜撮影すること。
			打込状況	1施工箇所につき1回 〔打込中〕		
			根入長	1施工箇所につき1回 〔打込前〕		
			偏心量	1施工箇所につき1回 〔打込後〕		
基礎杭工	既製杭 R C杭 P C杭 P H C杭 S C杭鋼杭	数量	全数量 〔打込後〕			
		杭頭処理状況	1施工箇所につき1回 〔処理前、中、後〕			
		掘削状況（使用機械） 安定液混合ならびに投入状況鉄筋の全景 （長さ径）	工事の規模に応じて撮影回数を決める。			
		場所打杭				

区分		工種	写真管理項目		摘要		
			撮影項目及び内容	撮影頻度〔時期〕			
基礎杭工	場所打杭	場所打杭	打込状況	1施工箇所につき1回 〔打込中〕			
			根入長	1施工箇所につき1回 〔打込前〕			
偏心量	1施工箇所につき1回 〔打込後〕						
数量、杭径	全数量 〔打込後〕						
杭頭処理状況	1施工箇所につき1回 〔処理前、中、後〕						
鉄筋組立状況	1施工箇所につき1回 〔組立後〕						
ニューマチックケーソン基礎工 オーブレンケーソン基礎工	本体築造工		躯体	施工状況		1施工箇所につき1回 〔施工中〕	
				長さ		1施工箇所につき1回 〔施工中〕〔施工後〕	
				幅			
				高さ			
		壁厚					
		偏心量					
躯体工	躯体	施工状況		1施工箇所につき1回 〔施工中〕	測定箇所ごとに1回 〔施工後〕		
		幅					
		高さ					
		壁厚					
			長さ				
施設							

施設

区分		工種	写真管理項目			摘要
			撮影項目及び内容		撮影頻度〔時期〕	
躯体工		開口部 ゲート用開口部 可動せき用開口部	施工状況	1施工箇所 〔施工中〕		
			幅、長さ	1施工箇所 〔施工後〕		
			高さ			
越流樋工		流出トラフ	施工状況	1施工箇所 〔施工中〕		
			幅			
			高さ	1施工箇所 〔施工後〕		
			厚さ			
			延長			
			施工状況	1施工箇所 〔施工中〕		
			厚さ			
			幅	1施工箇所 〔施工後〕		
越流せき板工		越流せき	高さ			
			幅			
			高さ			
			延長			
管布設工		流入きよ 流出きよ	施工状況	1施工箇所 〔施工中〕		
			幅			
			高さ	測定箇所ごとに1回 〔施工後〕		
			厚さ			
			延長			
			施設			
			場内管路工			

区分		工種	写真管理項目		摘要
			撮影項目及び内容	撮影頻度〔時期〕	
施設	深層混合地盤改良工	薬液注入工噴射攪拌工	管渠に準ずる。		
		地下水低下工法	管渠に準ずる。		
		圧密促進工法	使用材料施工状況（使用機械） サンンドコンパクションバイ アル工 径、間隔施工状況計測管理状況	ブロックごと	

*その他の項目については下水道土木工事必携（案）（公益社団法人 日本下水道協会）によるものとする。
 *監督員から特段の指示があった場合は、撮影頻度を追加、省略できる。

付 則 平成5年4月1日 下水道部公共下水道課制定
 付 則 平成9年4月1日 下水道部改定
 付 則 平成10年4月1日 土木部改定
 付 則 平成11年4月1日 土木部改定
 附 則 令和5年4月1日 下水道・河川施設課改定
 附 則 令和7年4月1日 下水道・河川施設課改定

請負工事等打合せ簿

発議者		<input type="checkbox"/> 発注者 <input type="checkbox"/> 受注者	発議年月日	令和 年 月 日
発議事項		<input type="checkbox"/> 指示 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 通知 <input type="checkbox"/> 承諾 <input type="checkbox"/> 提出 <input type="checkbox"/> 報告 <input type="checkbox"/> 届出 <input type="checkbox"/> その他 ()		
工事等の名称				
内容				
<div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div>				
添付図 葉、その他添付図書				
処理回答	発注者	上記について <input type="checkbox"/> 指示 <input type="checkbox"/> 承諾 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 通知 <input type="checkbox"/> 受理 します。 <input type="checkbox"/> その他 () 令和 年 月 日		
	受注者	上記について <input type="checkbox"/> 指示 <input type="checkbox"/> 承諾 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 通知 <input type="checkbox"/> 受理 します。 <input type="checkbox"/> その他 () 令和 年 月 日		

監 督 員	主幹・係長	課 長

現代 理 人	場 人	主任(監理) 技 術 者

大和市下水道工事施工管理基準

令和 5 年 4 月 初版発行

令和 7 年 4 月 改訂

